上の設計治体
目治体
した。
の実現
へのし

わ寄せが及ばないように契約金額や技能者の賃金を決定できる仕組みの検討も進めているとした。

別教育
るよ
トから
出した
式の資
作成。
・改修

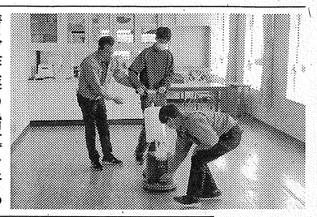
工事等における石綿障害の予防』講師用パワーポイント」と題してCD-ROM形式で売り出した。販売価格は定価3490円、会員3140円（いずれも消費税込）。

の技術で清掃指導

年支援学校に講師派遣

ンス協
長）は
「
童たち
つも驚
る力、
からの
のだと
うし、
品を講
、キャ
して秋
員長が
した。
機を表
かった
」など
同部は
を継続

9日、会津若松市の会津支援学校で、高等部生徒1～3年生10人を対象に清掃作業の指導を行った。



ポリッシャー作業を体験する生徒

生徒らにプロの知識や技術を伝え、就職や今後の生活に役立ててもらうのが目的で、県内支援学校の作業学習に講師を派遣している。今回はサンライズの大島雅樹定期清掃管理部係長、五十嵐昌宏、篠原優亮両主任が講師を務めた。

大島係長は「実際に体験しながら作業内容を学んでほしい」とあいさつし、使用する道具を説明した。講師3人がダスタークロスやポリッシャー、汚水回収用掃除機、水拭きモップ、ガラス拭きなど作業を実演し、器具の使い方や動線の取り方など作業のポイントを教えた。

生徒らは講師の指導を受けながら交代で作業を体験。作業の種類や時間の使い方などについて質問が出され、大島係長が「焦らずに丁寧な作業を心掛けてほしい」と答えた。

21日、温泉熱活用でWebセミナー

環境省は21日、ウェビナー形式で「温泉熱の有効活用促進セミナー」を開く。16日まで専用フォームによる申し込みを受け付ける。

温泉熱は地域固有の熱源として高いポテンシャルを備えることから地域の低炭素化・活性化への活用が期待されている。温泉熱の普及促進に向け、有効活用に関する情報提供や、同省が導入のステップ、先進事例を取りまとめ2018年に作成した「温泉熱有効活用に関するガイドライン」などを紹介する。

問い合わせは窓口業務担当の総合設備コンサルタント環境・エネルギーソリューション部（担当＝三毛、磯村、染谷、三沢氏）☎03（5453）3057まで。

講師、テーマは次の通り。

▽サステナブルな温泉歓幸地の創造へ（加藤貴之元気アップつちゆCEO）▽松之山温泉の熱利用によるエコビレッジ構想（柳一成松之山温泉合同会社まんま代表）▽熱源ポテンシャルの多段活用（和田勝壮瞥町産業振興課資源エネルギー係主幹）

雪関連の技術一堂に

若松で3度目ゆきみらい

業展
興出
研が
理研
ら

【既報】会津若松市での開催は3度目となる「ゆきみらい2023in会津」。国土交通省などが主催し、東北、北海道、北陸の各自治体をリレー形式で開催しており、今回は8日に開幕。9日は企業、行政などが克雪の技術システムや製品などを紹介した。

会場の鶴ヶ城体育館には、理研興業（北海道小樽市）がCLTを利用した防雪柵を出展。柴尾幸弘副社長、松田大樹氏らが商品をPRした。「素材『CLT』からの多様な分野への派生」がテーマ。CLTが経年劣化した際は木質バイオマスの燃料となり、さらに、木質バイオマス発電の副産物「木タール」は、北海道ならではの鳥獣被害対策につなげる。

同社は、エゾシカが嫌う臭い（木タール）を放つ「カプサイシンスパイラルカバー」も開発。これを既設の防止柵に設置することで、道路、鉄道への鳥獣侵入を防ぐなどの効果も期待できる。

総合レンタル業のパイオニア・西尾レントオール（大阪市）は、施工精度を重視し、オペレーターの立ち姿勢作業に特化した設計のモーターグレーダを出展。会場でデモンストレーションを行った。

富山泰幸執行役員東北営業部長は「グレーダーは建設機械の中でも操作が難しい。オペレーターが技術継承を行う際、有効な操縦席になっている。除雪企業の次世代育成にも貢献できるよう研究を続けたい」と述べた。

地元からは、公共施設などへの融雪装置、凍結防止用ヒーター各種設備の設計施工販売を手掛けるサジクラフト（会津若松市）が出展した。

佐治敦社長は、他県から訪れたメーカー担当者らに、会津の雪の特徴などを説明しながら「歩行者や車両の安全性確保に、用途や設置規模に応じて対応できる。日々、理想の路面ヒーティングを追求し、技術の研さんに務めたい」と話した。

気候変動で最近は、降雪の有無が見通せない状況が続く。施工各社にとって、車両購入の決断が難しいが「除雪機械はレンタルが安心」と話すのは、東亜リース（岩手県奥州市）の星宮司除雪マーケティング部次長。ブース内に精巧なグレーダースケールモデルを展示し、来場者の注目を集めた。「レンタル期間は単年度でも可能」とPRした。

「克雪」「資源開発」「環境エネルギー」の3本柱で、地下水による融雪の実績を誇る日本地下水開発（山形市）。無散水融雪システム、効率的な冷暖房を実現する帯水層蓄熱システムで、冬の安全安心に貢献する技術力をPRした。雪国を知り尽くした地元・会津若松市出身の小川辰壽福島営業所参事らが県内の導入例などを紹介した。

「冬期に生じる災害対応」「地域性を活かした観光・産業振興・地域づくり」などをテーマにした意見交換や、雪国でのデジタル技術活用に関するパネルディスカッションも行われた。

（上から）理研興業、西尾レントオール、サジクラフト、東亜リース、日本地下水開発のブース

総合資格学院

1級建築士15人が合格

県内占有率9年連続首位

乾杯する大河原氏と参加者

総合資格学院郡山、いわき両校の2022年度1、2級建築士合格祝賀会はこのほど、郡山市のホテルプリシード郡山で開かれ、難関資格の取得を祝った。

県内の1級建築士合格者は25人。両校からは16人の合格者を同年度受講生から輩出し、県内合格者占有率62・5%で9年連続1位を達成した。このうちストレート合格は5人（県内8人）。両校の2級建築士試験合格者は15人だった。

合格者や講師、県建築士会の髙橋孝行副会長、幕田宙晃郡山支部副長、藤村圭城ふくしま建築住宅センター長から来合わせて約30人が出席した。西沢正夫郡山・いき校長が合格者に対し「これまでの努力が報れ、協力してくれた方の顔が脳裏に浮かんでいると思う。建築士として新たなスタートを切るが、業務には大きな責任が伴うことを意識してほしい」とあいさつした。

髙橋副会長は「資格を得ることで、新たに責任ある仕事を受けられるようになり、第一線で活躍できる」と祝辞を述べ、同学院の大河原憲一講師の発声で乾杯し、来賓交えて歓談した。

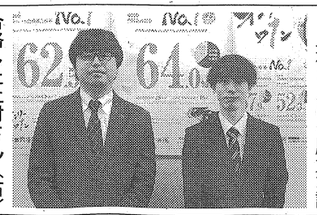
◆日大・大学院生1級建築士合格　総合資格学院郡山校で学んだ日本大学大学院工学研究科2年生の上村岬さんは、2022年度1級建築士試験に合格した。同大学院で在籍中の合格者は初。

上村さんは郡山校の1級建築士設計製図完全合格コース（長期）を受講。実際に現場で働いている講師が対面で講義することに引かれ、同校で学ぶことを決めた。

上村さんは「膨大な試験範囲を満遍なく勉強するのはとても大変だった。勉強時間を確保できる大学院生のうちに合格することを目指した」と難関試験に挑む決意をした理由を述べた。

西沢正夫郡山校・いき校長は「4月の模擬試験で結果が出なかったことをきっかけに上村さんの意識が変わり、指導の際はモチベーションを保てるよう意識していた。社会人受講生と彼が共に学ぶうちに、大学院生中に合格する意識が高まったようだ」と話した。

上村さんは大手ゼネコン会社への就職が内定しており、資格を生かし、海外で勤務することを目標としている。筆記試験、設計製図試験に合格した上村さんは、実務経験2年以上を経ることで1級建築士として登録される。



合格した上村さん（右）と西沢校長

2巡目（2019～2021年度）道路管理者別の点検結果

■橋梁

管理者名	判定区分 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	合計
国土交通省	162	261	51	0	474
福島河川国道	38	73	11	0	122
郡山国道	53	65	17	0	135
磐城国道	71	123	23	0	217
高速道路会社	94	306	62	0	462
県	133	2,108	624	1	2,866
福島市	255	313	64	0	632
会津若松市	164	191	13	0	368
郡山市	97	431	43	0	571
いわき市	470	485	52	0	1,007
白河市	7	199	33	0	239
須賀川市	4	139	40	0	183
喜多方市	15	172	40	0	227
相馬市	23	162	28	0	213
二本松市	122	284	26	0	432
田村市	31	229	18	0	278
南相馬市	9	60	56	0	125
伊達市	7	248	48	0	303
本宮市	88	72	2	0	162
桑折町	4	9	5	0	18
国見町	15	19	4	0	38
川俣町	58	73	4	1	136
大玉村	21	37	0	0	58
鏡石町	13	20	1	0	34
天栄村	17	61	0	0	78
下郷町	6	82	10	0	98
檜枝岐村	10	7	7	0	24
只見町	49	58	17	0	124
南会津町	5	79	133	0	217
北塩原村	11	11	2	0	24
西会津町	5	80	6	0	91
磐梯町	12	14	0	0	26
猪苗代町	31	50	13	0	94
会津坂下町	8	16	5	0	29
湯川村	4	7	0	0	11
柳津町	0	41	14	0	55
三島町	0	7	1	0	8
金山町	5	49	5	1	60
昭和村	0	0	0	0	0
会津美里町	18	35	1	0	54
西郷村	11	58	10	0	79
泉崎村	4	32	1	0	37
中島村	1	18	0	0	19
矢吹町	11	18	2	0	31
棚倉町	1	76	2	0	79
矢祭町	0	0	0	0	0
塙町	1	1	0	0	2
鮫川村	1	53	6	0	60
石川町	50	76	1	0	127
玉川村	19	21	2	0	42
平田村	4	32	0	0	36
浅川町	5	24	2	0	31
古殿町	11	30	1	0	42
三春町	5	63	3	0	71
小野町	15	29	5	0	49
広野町	3	19	4	0	26
楢葉町	0	41	14	0	55
富岡町	24	37	11	0	72
川内村	24	28	5	0	57
大熊町	6	12	1	0	19
双葉町	0	0	0	0	0
浪江町	90	82	10	3	185
葛尾村	6	20	5	0	31
新地町	38	51	10	0	99
飯舘村	24	66	9	0	99
合計	2,339	7,299	1,523	6	11,167

■トンネル

管理者名	判定区分 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	合計
国土交通省	0	8	14	0	22
福島河川国道	0	2	9	0	11
郡山国道	0	0	0	0	0
磐城国道	0	6	5	0	11
高速道路会社	0	11	5	0	16
県	0	42	63	0	105
会津若松市	0	2	0	0	2
郡山市	0	0	0	0	0
いわき市	0	1	5	0	6
白河市	0	0	0	0	0
喜多方市	0	0	0	0	0
相馬市	0	0	0	0	0
南会津町	0	0	0	0	0
柳津町	0	0	0	0	0
会津美里町	0	0	0	0	0
塙町	0	0	0	0	0
広野町	0	1	0	0	1
合計	0	65	87	0	152

■道路附属物

管理者名	判定区分 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	合計
国土交通省	16	62	26	0	104
福島河川国道	2	15	4	0	21
郡山国道	8	28	16	0	52
磐城国道	6	19	6	0	31
高速道路会社	50	81	4	0	135
県	2	63	71	0	136
県道路公社	0	0	0	0	0
福島市	0	1	0	0	1
会津若松市	0	1	0	0	1
郡山市	1	14	1	0	16
いわき市	0	15	3	0	18
喜多方市	0	0	0	0	0
南相馬市	0	0	0	0	0
下郷町	0	0	0	0	0
只見町	0	2	0	0	2
西会津町	0	2	1	0	3
猪苗代町	0	1	0	0	1
三島町	0	1	0	0	1
西郷村	0	2	0	0	2
棚倉町	0	1	0	0	1
三春町	0	0	0	0	0
広野町	0	0	0	0	0
富岡町	0	0	0	0	0
大熊町	0	0	0	0	0
合計	69	246	106	0	421

※22年3月末時点、対象施設がない管理者除く

評価は配置予実績等種業務分担や点、④保策やの対応する。

発注の路、河注実績ずれか、営業件。方ICCまで内容は、路管理）②防）ノーポ価契約緊急出修（道）③雪結抑制間4月日。概で上限。（消費

表彰状